

学会ハイライト

第68回日本皮膚科学会中部支部学術大会を終えて

(平成29年10月7日, 8日 国立京都国際会館)

田中 俊宏

滋賀医科大学皮膚科学講座 教授

はじめに

平成29年10月に、京都市の国立京都国際会館で中部支部学術大会を開催させていただきました。滋賀県にある大学が京都で主催？ なにそれ？ と不思議に思われるかもしれませんが、理由は大きく3つあります。1つは、中部支部学会は年々参加者が増えている学会で、大きな、そして運営に慣れている会場が望ましかったこと。2つは京都のネームバリューで参加者が増えるのではないかとせこく考えたこと。実際、皆様どうでしょうか？ ご自宅から京都に行くのと、大津に行くのを比べたら京都のほうが便利そうに思われるのではないのでしょうか。実際には京都駅から地下鉄に乗るかJRで大津に行くかの違いで時間はほとんど変わらないのです。が、人様の印象ってのは、ほら、大切なものですから。後でも述べますが、この目論見は当たり、最高の入場者数をゲットできました。ありがとうございます。3つ、つまり最後の理由は、前例の存在です。これまでに福井の熊切教授が京都で、和歌山の古川教授が大阪で、つまりホームグラウンドを離れて開催されておられます。人格、見識ともに優れた教授が、それも二人も都会志向で開催されているので、これを引き合いに出せば、「またお前は軽拳妄動しおって」と厳しく批判されるのを逃れられると考えました。本当に、先達はあらまほしきもの(徒然草52段)で

あります。

このようにして、開催の2年くらい前に、とにかく会場を押さえて、あとはどうなることやらと思いながら当日を迎えてしまいました。時系列でこんなことがあった、こんなことを考えた、を書きます。

場所の選定のほかに日程の決定もありました。会長に選んでいただいたときに国際会館に問い合わせたところ、2年後の開催日は2箇所しか空いていませんでした。その中で、3連休のうちの土曜日と日曜日を選択しました。京都で3連休のうちの2日間をあえて選ぶ。これは1日ゆっくりできると考えていただけるか、それとも宿泊代が高いときを選びやがって、と思われてしまうか一か八かのギャンブルでした。幸い、前者と考えてくださった会員が多かったようでホッとしました。

裏方のお仕事

続いて、学会を主催するのですから、当然裏方の仕事をするわけです。ただ、幸いだったのは、日本皮膚科学会が支部大会をサポートしてくれる仕組みを整えてくださったおかげで、これまで外部委託だった学会のサポートを、山田さんを中心とした日皮会本部が請け負ってくれました。過去の資料が豊富なこと。だいぶ自信が出ました。続いて一番の懸念の「会計はうまくいくものなの？」と前任と前々任の大会会長に聞いてみました。山



図1 著者.

西教授がいうことには「甘くはないよ. きめ細かく, 一生懸命励まないとダメだよ. 准教授と一緒に, あれやこれや呼び出したり頼み込んだり, いろいろやったよー」とのことで, ちょっと気が重くなりました. 一方でそのまた前任の錦織教授がいうことには, 「うーん, 特別なことはしなかったけどー. 准教授がいろいろやっていたよー」とのことで, えらく話が違うなあ, と思いつつ, 両大学ともに准教授がキーワードだ! と心に刻んだのでありました. では, じゃあ, 滋賀医科大学はどうだったのよ? ってことになりますが, 世の中は厳しいってことをたっぷりと学習しました. 幸い中西特任准教授, 藤本准教授, 加藤講師, 三好秘書が大車輪で活躍してくれたので, どちらかといえば私は錦織教授と同じような立場でした. でも日本は不況だって心から思いました. まだ会計の最終結果は出ていませんが, なんとかあった感じがします. はい.

前日の情報交換会

学会の前日に情報交換会をします. 講演を引き受けてくださった先生や, 座長を引き受けてくださった先生とともに晩御飯を食べながら情報交換をするのです.

が, この日は翌日からの学会の出席者数が不安になる雨でした. 天気予報では週末にかけてお天気はよくなるってはいくれていましたが, 不安材料です. 図1は, その不安を押し隠して皆様楽



図2 日本皮膚科学会理事長の島田眞路先生.

しく過ごしてくださいと呼びかけている私であります. 健気なものであります. で, 図2は日本皮膚科学会理事長の写真です. ご挨拶をお願いしました. 島田理事長はみなさんご存知のように, 堅物であります. だいたい正しいことしかいわない. だからご挨拶はやや長めで常識的だから, 取り分けて面白いわけではない. つまり理事長のお言葉にふさわしいことを語るのがこれまででした. が, 世の常識はいつかは覆される日が来るのです. 不易流行(松尾芭蕉 元禄2年)とはよくぞいったものです. 島田理事長は, なんと「明日からの学会が不安になるような雨がしとしとと降っています. まあですね, これは私が思うには会長の人柄の結果ではないかと思うわけです」とかいうのです. 「はあ? 何をいい出すことやら」と聞いていたら, 会場は一瞬だけ静かになって, 次の瞬間大受け, 大爆笑でした. フロアからは「そうだそうだ!」「よくぞいった!」との掛け声も聞こえます. 島田理事長の, まったく新しい芸をみた瞬間でした.

シンポジウムや特別講演

どんなことをすれば皆様に喜んでもらえるか? これは真面目に考えました. で, 思いついたのは, 「しばらくたってからじわっと役に立つ」をキーワードにして考えました. 特別講演は, いずれ近々ノーベル賞を取るんじゃないかしら, という分野にしました. この分野の基礎の基礎を理解しておけば, のちのち「ウンチクあるなあ」といってもら



図3 一番大きなA会場で。

えて、皆様が「ああ、あの中部の講演を聞いておいてよかった」と思っていただけのではないかと考えて、1つは坂口先生のTreg(私が大学院生のころ1階上の5階の研究室でやっておられた)、もう1つは本庶先生のPD-1(私が大学院生のころ、本庶研は向かいの建物だった)を選びました。Tregは坂口先生自ら講演していただき、本当にありがとうございました。PD-1は本庶先生のお弟子さんにあたる岡崎先生に講演をしていただきました。両方とも、そもそも発見の馴れ初めから歴史を語ってくださいとお願いしていたので、わかりやすく私は大満足でした。これに関連して、学問だけでなく役に立つ皮膚科学もいるな、ってことで免疫療法のシンポジウムを行いました。ついでに書くと、海外から演者をお招きするのはやめにしました。これは今書いたばかりの理由、自分が理解できそうもないことはやだな、と思ったからです。いい講演は当然最先端の話になるわけで、最先端を英語でやるのはしんどいなあ、と思ったので、やめにしました。シンポジウムは、社会と歩む皮膚科学ですから、近い将来皮膚科医がこんなことやあんなことをやらなければならないであろうことの予備知識を身につけていただければ役に立つのではないかと考えました。具体的には在宅

の医療ってどんなの? とか、いずれ皮膚科医もサインをしなければならないであろう看護師特定行為ってどんなの? とか、すでに医療事故調査制度が始まっていますので、医療安全って今時はどんな考え方をしているの? などなどを取り上げて解説をしてもらいました。

で、何が問題であったのか? なのですが、何しろシンポジウムとか特別講演は自信作ですから、1,000人くらい余裕で入れる一番大きな部屋で講演をもらったのです。これがねえ……なんかお客さんがパラパラにみえて悲しかったです。もっと小ぶりの部屋にするんだった。辛口の先輩



図4 滋賀県の地酒を選びすぐってご提供。



図5 学会スタッフ一同.

たちにそれをズバズバと指摘され、ますます悲しくなりました。過信はいけないな。反省反省(もう遅いけど)。

図3は、一番大きなA会場に結構人が入ったときの写真です。自分の記憶を、いつもこんなに混み混みだった！！と思ひ込むように置き換えています。2日目(日曜日)は開業の先生が聞きたいと思ってもらえるようにプログラムを組みました。シンポジウムや教育講演は、どこにでもある疾患で、でも案外てこずることがある、つてものを並べたつもりです。こっそり部屋を覗いてみると、お客さんがたくさん入っていてホッとしました。

最後のほうになると、人もまばらになり、これはこれで悲しいものがあるので、思い切って最先端の紹介にしてみました。各大学の若手がやっている新しい試みを話してもらう、いわば「明日の皮膚科学」。一般演題は同じような時間まで並べて最後まで何かしらがあるようなプログラムにしました。

懇親会 そして学会終わり

なにはなくても懇親会。そもそまご挨拶で準備怠りないと大言壮語しましたので、ここは手抜きが許されない局面であります。で、特任准教授とか准教授とかが考えたのが、食べ物と飲み物です。図4はその中の「飲み物」。滋賀県の地酒を選びすぐって提供しました。懇親会は盛況でありがたかったです。

そうこうするうちに、学会も終盤に差し掛かりました。図5は最後まで残っていた教室員と一緒に写真を撮ったところです。終盤になる頃にはお客さんの数もわかって来て1,800人を超える盛況だったとわかりました。そこで、図に乗って、教室員に、これだけ盛況だったのは何がよかったんだと思う？と聞いてみました。すると一番多かった答えは、「天気よかったから」、次は「場所よかったから」、その次は「時期よかったんでしょねえ」……会長のお人柄、という意見は皆無でした。はい、現実には直視しなければいけないな。